

# はじめに 2000年問題

## Preface The Y2K Problem

北海道大学大学院理学研究科  
加藤 幾芳  
Kiyoshi Katō  
Division of Physics, Graduate School of Science,  
Hokkaido University

あたかもノストラダムスの大予言のような人類の滅亡に関わる世界的危機の年として、西暦2000年を迎えた。その結果はどうだったのだろうか？私の知る限りでは、「2000年問題」はどうやら大きなトラブルもなく過ぎ去ったように見える。しかし、果たして手放しでもう過去のこととしていいのだろうか。

つい最近も、核データ分野で最もよく知られたデータベースの一つである「CINDA」(the Computer Index of Neutron Data)の「2000年問題」が検討の対象になった。すなわち、CINDAに収録する文献刊行年の記述方法が議論になり、結局、西暦の下2桁表示でなく、全4桁表示にすることに決まった。「そんな議論はもっと以前にやっておくべきだったのに、今ごろ議論するのは怠慢だ」とお叱りがあるかもしれない。しかし、よく見てみると我々の身近なところでも、同じようなことが結構存在していることに驚かされる。例えば、この報告書の表紙も今年度から西暦の下2桁表示から、全4桁表示に変わる。2000年度の終わりに刊行されるために、今になって問題になったのである。だが、これらの問題は2000年を迎える前にどうしても検討して対策を打っておかなければならないという筋の問題でもない。そのために、今になって対策を講じることになったのであろう。「2000年問題」は確かに終わった問題ではあるが、それは大きなトラブルを伴うと危惧された、所謂「2000年問題」の終結であって、些細な「2000年問題」、すなわち人命には関わらないような問題や、或は、他者に大きな影響を与えないような問題は身の回りには結構沢山残っているということを、上記の例は示していると思われる。

さて、「2000年問題」はコンピュータ問題であったが、21世紀を迎え、いろいろな面での対策は十分なされているであろうか。例えば、NRDFの「21世紀問題」は何であって、その検討・対策は出来ているのであろうか。「NRDFの21世紀問題」といえば、NRDFにとって別な意味でのかなり深刻なコンピュータ問題が存在した。NRDFシステム全体が大型計算機の利用をベースにして作られているために、大型計算機のサービス停止とともに、NRDFが利用できなくなるという問題であった。この問題に対しては、かなり前から新しいNRDFシステムの構築に取り掛かり、対策を講じてきた。そして、今や秒読みに入った大型計算機システムのサービス停止がいつ実施されても、NRDFが利用できなくなるという状況ではなくなった。そればかりでなく、新しいNRDFシステム構築の過程で、新しい学術データベースの利用システムの検討が行われ、CONTIPという試作品が作られた。CONTIPの名称の由来は、「Colligation of Nuclear Reaction Data Tools with InteligentPad」であるが、今では、「Creative, Cooperative and Cultural Objects for Nuclear Data and Tools on InteligentPad」の意味であると説明されている。いずれにしてもCONTIPは、核データを特定の目的や利用の仕方に限定しないで、様々な利用・検索の仕方が出来るように、そして利用者が利用・検索の仕方を作って行けるようにしようというシステムである。このようなシステムの構想が、21世紀の学術データベースの利用の変化・発展を視野に入れた、現時点での「NRDFの21世紀対策」の基本である。しかし、それはあくまでも基本であって、「2000年問題」と同様に、それに付随した様々な問題を解決して行かなければならないであろう。そのために、多くの利用者、研究者からのご協力とご支援を仰がなければならない。